

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502418
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	グループホーム桜ヶ丘
所在地	八尾市桜ヶ丘1丁目20番地 (電話) 072-945-3030
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	28人	常勤	8人, 非常勤 20人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	370円	昼食	550円
	夕食	580円	おやつ	200円
	または1日当たり 1,700円			

(4) 利用者の概要 (平成20年4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	63歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀谷診療所、西岡歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営するグループホームで、法人名の「ほのぼの会」にもあるように「ほのぼのとしたあたたかい普通の家庭の雰囲気の中で最後まで自分らしく」をモットーに利用者の暮らしを支えています。日々の日課にとらわれず、利用者一人ひとりの思いや意向をできるだけ把握しケアサービスを提供しています。居間は広い開放的なスペースとなっており、テーブルのほか、各自の身体レベルに合った椅子を使用しています。居間からはベランダが見え、日当たりも良く家庭的な温かみがあります。医療機関との連携もあり、緊急時など迅速に対応しており利用者や家族にも安心感を与えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で示された事項については、トイレの扉をアコーディオンカーテン式に変更し、トイレ内のスペースが広くなり、利用者にとっては使用しやすいものに改善されました。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はユニットごとにフロアリーダーが中心となり、職員の意見を取り入れながら話し合いが持たれています。まとまった内容を運営者、管理者と介護主任が再検討しています。職員全員で取り組もうとしています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、市の介護保険課、地域包括支援センター、利用者、職員などが参加し2ヶ月に1回開催され、運営状況や利用者の生活ぶりなどの報告などを行っています。また、市の健康保健福祉課にある「高齢介護基盤推進プロジェクトチーム」に相談、助言を仰ぎ常に連携を図り、ケアサービスの質の向上に取り組んでいます。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問も多く、家族と職員との間に良い関係作りができています。家族の訪問時などで、意見や不満などに耳を傾けるような体制がとれています。意見箱の設置もあり、申し出があればすぐに対応できるようになっています。今後は家族への連絡など定期的に行っていき、家族との接点を大切にしたい情報提供を積極的に行っていくことが求められます。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との関係が希薄な面もありますが、地域の自治会に加入し、夏祭りなど行事には参加するなど積極的に交流を図る努力をしています。ホームで毎月行われる音楽コンサートには、気軽に立ち寄ってもらえるようチラシを配布したり、ポスターを掲示したりして地域の方にも参加してもらっています。</p>

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の家と同様に生活してもらうことをモットーに「ほのぼの」としたあたたかい雰囲気の中で、「最後まで自分らしく生活が継続できること」を理念に、地域や各関係者との関係を保ちながらその人らしく暮らしていけるよう支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用の際には、必ず理念に触れ理解してもらえるようしています。また毎朝の申し送りの時にも、理念の内容に触れ日々のケアについての話し合いも持たれています。「最後まで自分らしく」ということを明文化し、職員が日常から目にする場所に掲示しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の自治会に加入し、夏祭りなど行事には積極的に参加しています。ホームで毎月行われる音楽コンサートには、気軽に立ち寄ってもらえるようチラシやポスターなどを配布や掲示をしています。地域の方の参加もあり、交流が図れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットのフロアリーダーが中心となり、職員の意見を取り入れながら話し合いが持たれています。まとまった内容を代表者、管理者と介護主任が再検討しています。前回の外部評価で示された事項については全てではありませんが、改善ができています。改善できない事項でも決め付けず、職員間で検討するなど話し合いの機会を持ち、改善に取り組んではいかがでしょうか。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市の介護保険課、地域包括支援センター、利用者、職員などが参加し2ヶ月に1回開催され、運営状況や利用者の生活ぶりなどの報告などを行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点がある際は、市町村の健康保健福祉課にある「高齢介護基盤推進プロジェクトチーム」に相談、助言を仰ぎ常に連携を図り、ケアサービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理の報告は各利用者の家族の意向に沿った形で行っています。立替払いを行っていますが、事前の了解を得て購入しています。しかし利用者の生活状況や職員の異動などの報告などは定期的にはできていません。	○	今後、家族への連絡など定期的に行っていき、家族との接点を大切に、情報提供を積極的に行っていくことが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問も多く、家族と職員との間に良い関係作りができています。家族の訪問時などで、意見や不満などに耳を傾けるような体制がとれています。意見箱の設置もあり、申し出があればすぐに対応できるようになっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年間で多くの職員異動がありました。離職の理由は様々ですが、運営者や管理者も、離職理由を理解し、少しでも改善できるところは話し合いを持てるような努力をしています。利用者の排泄介助などは新人職員に任せないで、人間関係ができていく職員が行うようにし、利用者が不安にならないよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の異動が多く、定期的な研修の必要性は感じていながら、実践するまでに至っていません。不定期ではありますが、その時々に必要な研修を行う努力はしています。	○	外部研修などに参加した際は伝達研修を行い、また研修報告など閲覧できるような工夫をし、全職員が研修内容を共有し、質の確保・向上につながるよう期待します。また、年間計画の中で研修を位置づけていく運営面での工夫が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員各自で知り合いのホームへの見学に行った経験はありますが、地域の同業者との交流の機会がありません。	○	運営者は、同業者や他法人の事業者との交流や連携の必要性を認識し、地域の同業者と交流を持てる機会を確保することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にケアマネジャーと介護主任が自宅を訪問し、生活歴などを家族から聞き取りをすることにより、徐々に人間関係を築き、安心して入居できるようにしています。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	日々の生活の中で利用者は「人生の先輩」であるとの考えが職員の中で共有できており、利用者一人ひとりの個性を生かし、張りのある生活ができるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の訪問時に利用者の暮らし方の希望や意向を聞き、日々の支援に役立てています。アセスメントシートを利用し、利用者の意向や意見（食べ物の好み）などを把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「できること・できないこと」をわかりやすく表し、カンファレンスなどで、主治医や家族の意向も取り入れながら、利用者一人ひとりの生活特性を生かした介護計画を作成しています。現場の職員も常に介護計画を意識できるように、閲覧しやすい場所に置いています。家族の同意欄には署名、捺印があります。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的に6か月に一度行っています。モニタリングを行う際には、現場の介護職員とのカンファレンスで検討し、家族の意見も取り入れて行っています。利用者の状態の変化により、その都度必要に応じて介護計画の見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医などの医療機関との連携はできており、緊急時などはすぐに連絡がとれ、併設の訪問看護ステーションとの協力体制ができています。同法人の小規模多機能事業所に勤務する看護師との連携もできています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関の受診が可能で往診もあります。往診のある医療機関では訪問看護ステーションが併設されており、夜間などの緊急時にも連絡がとれるように、連携が図られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に看取りの指針はありませんが、本人や家族等からの希望があれば、看取りを実施していくことは職員全員で共有しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	夜間にポータブルトイレを使用していますが、日中は居室から出し目立たないところに収納し、本人の気持ちに配慮しています。個人情報の保管は鍵のかかる書庫に納めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意向に沿い、特別な日課を設けず、その日その日の生活を尊重しています。例えば趣味である裁縫に打ち込んでいる時など、食事の時間でも本人の納得のいくように職員が寄り添い見守っています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は週に1度は買い物、調理を行っていましたが、現在は全食外注し材料を運んでもらっています。利用者と一緒に調理や盛り付けなどを楽しく行っています。各テーブルに職員が付き添い、同じものを食べながら利用者のサポートを行っています。	○	以前のように週に1度でも、食材の購入日を設けることや、利用者と一緒に考えるメニュー作りを検討するなどの取り組みが求められます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴できるように配慮されています。希望があれば毎日でも入浴できます。体調が悪く入浴ができない利用者には足浴も行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴などを職員で共有し、張り合いのある生活ができるよう支援しています。手芸や裁縫が得意な利用者には、いつでもどこでもできるよう見守り支援をしています。着物が好きな利用者には夏祭りなどで浴衣を着て参加してもらっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのショッピングモールに買い物に出かけたり、アイスクリームを食べに出かけたりするなど、利用者の希望に応じた外出支援を行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関は誰でも自由に出入りできますが 玄関、ユニット出入り口には常に鍵がかかっています。パスワード式で、職員しか使用することができません。	○	利用者一人ひとりの行動パターンを理解し、日中鍵をかけないで支援できるような努力を全職員で話し合うことが望まれます。「できない」と結果を決めず、鍵をかけず安全に過ごすことができるような工夫を重ねることが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応マニュアルは作成しています。しかし、職員がすぐ目に届く場所にはありません。また、避難訓練も実施していない状況です。	○	年に2回、災害に備えた避難訓練を実施することが求められます。そのうち1回は消防署の協力も得て取り組むことが求められます。非常・災害時のための食料品と水の備蓄については、「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量のチェックが毎日確実にできており1日を通じて必要な水分、食事量の摂取ができるよう支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広い開放的なスペースとなっており、テーブルのほか、利用者一人ひとりの身体レベルに合った椅子を使用しています。居間からはベランダが見え、日当たりも良く明るい印象を受けます。季節の花の鉢植えなども日々楽しめます。ソファや畳ベンチがあり、ゆっくり過ごすことができます。トイレの扉は以前の折りたたみ式からアコーディオンカーテン式に改善しており、使いやすく広いスペースでの使用が可能になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は馴染みのタンスを持ち込んだり、好みのカーペットを敷いたり、また仏壇や遺影などの持ち込みも自由にできるようになっています。ベッドは備え付けですが、ベッドに慣れていない利用者には畳を敷き、布団での対応を行うなど、居心地よく過ごせるよう工夫しています。		